

第40回

未来につなぐ世界史

監修・講師
羽田 正

学習のねらい

- ▶ 「民族」という概念の意味が必ずしも明白ではないことに気付き、すべての事象をこの語によって説明しようとする問題について理解する。
- ▶ 世界史とは国単位の異なる歴史の寄せ集めではなく、多様な人々のさまざまな動きが連動して構成される一つの歴史であることを理解する。
- ▶ 日本に住む地球の住民という意識を持って、主体的に世界史を学ぶ姿勢を身に付ける。

<21世紀の諸課題>

グローバル化 政治・社会的分断 地球温暖化

<これからの世界と日本>

多様性の尊重 連帯と協力

<学習のまとめ>

地球の住民 歴史から学ぶ

■ ■ ■ 21世紀の諸課題 ■ ■ ■

冷戦の終わった20世紀末以後、経済、情報、文化など多くの面でグローバル化が急速に進展し、人々の生活は大きく変化した。グローバル化には正と負の両面があるが、民族や宗教などの違いによる紛争の多発、世界と一国の中での富の偏在、環境問題の深刻化、一部の企業による情報の独占などは負の側面と言えるだろう。

番組では、ユーゴスラビアの例をもとに、人々は何によって一つのまとまった集団をつくるのかを考え、「民族」という人々をまとめるはずの概念が、その意味のあいまいさのゆえに紛争の原因ともなりうることを説明する。

また、グローバル化によって目立つ各種の「分断」を乗り越え、地球というかけがえのない共有財産を守るためには、人間集団とその文化の多様性を尊重するとともに、私たちは同じ地球の住民だという意識を持つことが重要であることを強調する。

■■■ これからの世界と日本 ■■■

当たり前のことだが、日本は地球の上であり、国境の外の世界各地と密接につながっている。グローバル化が進んだ現在では、政治、経済、環境、情報などさまざまな分野で生じる困難な課題は、外の世界と連動して生じている。これらの課題を解決するには、地球規模で有効な対策を考えてゆかねばならない。日本の中だけを見ていては、問題は決して解決しないだろう。世界史が重要なのはそのためである。

世界史を学ぶことによって、世界の人々がたどってきた道は多様であり、その文化もさまざまであること、その多様な世界の中に日本が位置し、国境の外とつながって動いているということが理解できるはずだ。そして、その多様な人々との連帯や協力の重要性に気付くだろう。

■■■ 学習のまとめ ■■■

世界史の学習は、世界の過去を知り、そこから現代の日本と世界を総合的に理解するためである。現在の私たちが当たり前だと思う価値、例えば、人間の自由や平等は、300年前の世界では決して当たり前ではなかった。「人間」の定義も現代とは異なっていた。植民地化をしてはならないという考え方は、100年前の世界ではほとんど顧みられなかった。これらの事実を知ることにより、現代社会の特徴がよく理解できるはずだ。私たちが持っている価値や知識の時代性や限界、持つべき新しい価値や知識に気付くこともあるだろう。世界史の学習とは、決して単に過去に起こった出来事の年号や有名な人物の名前を覚えることではない。現代の世界を深く理解し、地球の住民という帰属意識を持つための鍵を手に入れることなのだ。

考えてみよう 調べてみよう

- ユーゴスラヴィアの成立から崩壊までの経緯をたどってみよう。
- 奴隷解放への動きがどのようにして起こり、なぜ奴隷解放が実現したのかについて調べてみよう。
- 「マニフェスト・デスティニー」「文明化の使命」「白人の責務」に共通してみられる考え方は何だろう。考えてみよう。
- 世界史を学ぶ意味についてあらためて考えてみよう。